

ディレクトフォースについて

私は今までほかの価値観にたいして、理解しようとする気持ちがなかったように思う
例えば私は、他人が何かをはっきり伝えなくても、他人がその気持ちを読み取るのが当然だと思っていた。しかし私の祖母は物事ははっきりいわないと伝わらないという考えだ。私たちはよくそのことで口論になっていた。そしてその場合でも自らの価値観が絶対だと思っていた。

しかし今回三菱商事の方々のお話を聞いて考えを改めることとなった。

当たり前なことだが商社に勤めている方々は海外へ出張する機会が多い。そして現地の人々と共同で仕事をすることもある。

社員のかたの話によると、グローバルな仕事をする中で、世界のなかの日本を意識するようになったと言う。日本国内から見るのではなく、もっと広い視野で日本を見ることによって、日本が世界の中でどのような役割を果たしているかがわかるという。例えば日本のエネルギー自給率は5%だ。そのため海外資源への投資を通じて安定的な資源調達を行っている。三菱商事ではアフリカ、モザンビークのアルミ工場への投資を通して、日本企業として最大となるアルミニウムの権益を得た。これは日本の得になるだけでなく、現地の経済をも活発にした。さらに上がった利益で地域にどう還元するかも考えられている。このように日本が果たしている役割を知ると“日本人”としての自覚が持てるそうだ

また現地の方と仕事をするには“違う”ことを受け入れなければならない。つまり異なる価値観を理解しようとするということだ。それがないと到底一緒に協力して働き、何かを成し遂げるといことはできないだろう。

このお話のなかで、私にとって特に印象深かったのが、“違う”ことを受け入れる、ということだ。

私は今まで、他人に自分の価値観を押し付けていても、その人が家族だったり、友達だったりして、わがままを言っても許してくれていた。だから私も他人の価値観というものを気に留めなかったのだろう。

しかし、今の日本はグローバル化している。どの道に進むにしても、海外にいたり、外国人と接したりしなければならなくなるだろう。そのようなとき、私が今のまま、つまり他人の価値観を受け入れられないままだと、協力しなければならない相手と良い人間関係が築けず、失敗することになるだろう。

では、どうやって今の考え方を改善すればよいのだろうか。

ディレクトフォースの方々やディスカッションの時間に、いくつかお話されたことがあった。

まず大事なのが人の和を広げるということだ。人とのつながりが増えれば、それだけ多くの異文化と触れ合える。そのときには心構えをしておくことが重要だ。あらかじめ心構えをしておけば、受けるショックが少なくなる。そうやってたくさんの価値観に触れる訓練をしていけば、自分と異なった考え方も受け入れられるようになるだろうし、人間としての総合力も高まるだろう。

私は人と関わるのが苦手だ。しかしこれから先、人と関わらなければならない機会、関わることのできる機会は数多あるだろう。そのような機会を積極的に利用して、他人の価値観を受け入れるようになりたい。

企業訪問について

私は医療についても興味があるが、大学では工学関係の道に進みたいと思っている。そのことについては前々から悩んでいた。どちらかひとつに絞らなければならないと思っていたからだ。

今回訪問した放射線医学総合研究所の松藤成弘さんは九州大学大学院工学研究科の卒業だ。松藤さんがなぜ医療に携わるようになったのかを是非伺いたいと思っていた。

実は私が尋ねるまでもなく、松藤さんはご自身の経歴や今の仕事についたきっかけなどについてプリントにまとめてくださっていた。

それによると、松藤さんがそもそも工学の道を志したのは、高校時代の物理の授業がきっかけだそうだ。原子

核物理の授業に興味を持ち、核融合について大学で研究したいと思ったらしい。

実際に大学の学部時代に原子力技術を学ばれたが、裾野が広く、実用化までの道も遥かで、一個人が担える分野は限られていると感じた。

一方それまで学んでいた、放射線に関する知識の実社会への還元先としてがん治療があり、特に重粒子線治療という日本初、世界でも2番目となるプロジェクトが放射線医学総合研究所で始まろうとしていることを知り、是非かかわってみたいと思われた。

そこで、大学院から放射線医学総合研究所で重粒子線がん治療の研究を行い、それが縁でその後研究員として就職された。

私も、中学生のころから医療に従事したいと思っていた。しかし高校で物理の授業がきっかけで、今は工学を専門的に学んでみたいと思っている。医療への気持ちもまだ残っている。

松藤さんの経験を知って、おもったことがある。

何かを学ぶ上では、一応分野は分かれてはいる。しかし、だからといってそれぞれがばらばらに独立しているわけではない。どこかで通じることがあると思うのだ。だから、自分の興味があることをやってもそれが何の役にも立たない、ということはないだろう。

また、私は興味があるにもかかわらず、物理が苦手だ。そのことについて松藤さんに相談したところ、今は苦手でもやめないことが大切だとおっしゃって頂いた。

今回の訪問で得られたことは2つある。

まず、興味があるをやることに対してのためらいがなくなった。興味があることをやった方が楽しいし、やり続ければ、他のこととの繋がりも見えてくる。

また、やるからには一生懸命にやろうという決心がついた。例え今はできなかったとしても、続けていれば必ずできるようになるだろう。

これらのことを常に心に留めながら、興味がある道をどんどん進んで行きたい。